

皆さんお元気ですか。

志賀高原一の瀬は5月連休でスキーシーズンも終了し、スキー場も写真の通り雪が溶け、湿地帯やせせらぎには可憐な水芭蕉が顔を出し、春を感じさせてくれる時期となりました。

ちょっと遅い春の訪れを一の瀬よりお便り致します。



5/3の一の瀬ファミリースキー場



5/17の一の瀬ファミリースキー場



水芭蕉の群生



一の瀬の標高は1650mです。今朝の8時の気温は10℃、ちょっと肌寒い陽気ですが、新緑ラインは毎日10mから20m着実に高度を上げており、一の瀬でも白樺の葉が付き始め、芽吹きが始まり、いよいよ新緑のシーズンに入ってきました。朝方にはカッコウの鳴き声が彼方此方から聞こえてきます。

一の瀬の歴史1

今、一の瀬を源として流れ出でる子雑魚川には、幻の魚と言われる「原種岩魚」が棲んでいます。

昭和38年から始まった一の瀬スキー場の開発は昭和48年の最後の旅館の入植で軒数25軒、1日の最大宿泊者数6000人と志賀高原では最大の旅館区となりました。多くのお客様がご来山頂くことにより、旅館から排出される汚水の量が急激に増え、浄化能力の低い浄化槽では処理きれない状況がしばらく続きました。又、スキー場の新コースの開発も汚染に拍車がかかり、子雑魚川は汚染された川となり、岩魚の姿も見えなくなりました。

この自然破壊を憂い、岩魚が棲める清流を取り戻そうと立ち上がった人物がいました。

昭和28年頃より財産区の山林保護を目的として、一の瀬の隣の焼額山に小屋を作り生活をしてきた人でYさんという方です。

(次号へ続く)